

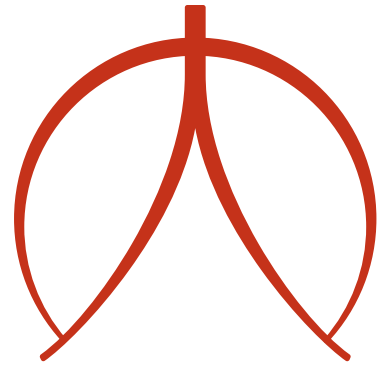
大谷大学広報

編集 大谷大学広報編集委員会

No.159

2004年11月5日

2004 秋



私のヒーロー・ヒロイン

学問のしおり

物から心、そして人へ
池上 哲司

国際交流トピックス

2004大谷大学紫明祭

谷大エリア散策

グリル YUTAKA

写真でふりかえる大谷大学今昔

大谷大学の女子学寮

SQUARE

携帯電話、
確かに便利だが・・・(^^;
山下 憲昭

冬扇

1980年代以降、図書館でも情報化が進み、図書館の機能に関する議論が変化してきた。自宅からインターネットにアクセスし電子ジャーナルを利用したり、文書や画像などを電子メールで送受信するようになった現在、利用者から「なぜ、わざわざ図書館に行く必要があるのか」という暗黙の問いが発せられているのである。

この問いに対して、ドラステックな対応を取るところが現れて

いる。喫茶店でコーヒーを飲みながら本を読んだりパソコンを使ったりできるのと同様に、図書館情報学教育では定評のあるピッツバーグ大学の図書館がカフェを作り、ベストセラーの持込を許可したときには非常に驚かされたものである。自宅より広い作業スペースを求めている利用者に対して、利用頻度の低い資料を書庫や倉庫に保存し従来より広い机を確保することで、利用者が資料を広げながらパソコンを利用できるように

したところもある。

図書館では、資料を収集、整理、保存し利用に供することが基本的機能であり、それらのどこに重点が置かれるか、それらにどのような機能が含まれるかは時代によって変わるが、基本的機能そのものは変わることがない、と言われてきた。これらの中に、アメニティの占める割合が高くなったということなのだろうか。

(山本貴子)

私のヒーロー・ヒロイン

私事になるが、僕のヒロインは同い年の堀江陽子だ——この名前で、誰のことなのかわかる人は少ないだろうけれど。ところで、十数年前にもらった彼女のサイン色紙には、こう書かれている。「努力に勝る天才なし」。本当はそこに、「〇〇くんへ♡」と僕の名前が入るはずだったのだが、依頼者の手違いから、彼女はこんな格言でごまかすことになってしまった。しかしこの言葉は後に、不器用で失敗の多い僕の人生を様々な形で支えていくことになる。堀江陽子が生きた人生——と僕が勝手に信じている——の、成功と挫折のそのままに。ヒーロー、ヒロインとは、どこか遠いかなたに在るものなのではなく、それを心に抱く人のすぐ傍に立ち、その人とともに生きるひとつの分身なのかもしれない。



平凡なヒーロー

趙 茜

ヒーローと言えば、よくパイロットや消防士などのイメージが浮かんでくるけれど、私のヒーローは立派な仕事をしている人でもなく、特に偉大なこともしていない、極々普通で、平凡に暮らしている人である。その人は私のお爺ちゃんだ。楽観的なお爺ちゃんは、うちではいつも愉快的な雰囲気を作ってくれる。家族の人々に幸せを感じさせてくれる人である。特に私にとっては、とても大事な人で困難があったとき、悲しいとき、いつもそばにいてくれて励まし

てくれたり、笑わせてくれたりした人であった。子どもの時から、お爺ちゃんはどんなことがあっても、悲しい表情は出さずに、いつも笑顔の印象があった。

私は子どものときに、両親が共働きであったから、お爺ちゃん、お婆ちゃんの家で育てられた。お爺ちゃんの家は、北京市内の平屋だ。昔に建てられた家で、庭があったから、子どもの私にとっては最高だった。縄跳びをしたり、夏の夜に庭でお爺ちゃん、お婆ちゃんと晩御飯を食べたりして、たくさんいい思

い出を作った。お爺ちゃんは郵便局で仕事をしていた。朝すごく早起きして、仕事に行くことがよくあった。毎年、年末年始は特に忙しくて、家に帰る時間すらないこともあった。友達の家が家族全員テーブルを囲んで楽しくお正月をお祝いしているとき、うちはずっと寂しかった。ほかの家族が楽しそうな様子を見て、心から羨ましくて仕方なかった。

また1年に一度のお正月の日がきた。「お爺ちゃん、今日、仕事を休んでくれないかな？ 1

日だけでいいから」家族が全員揃って、お正月を過ごすのは私にとって夢であった。「ごめんね。今日は仕事に行くよ」お爺ちゃんは、いつも通り仕事の準備をしていた。「どうしてお爺ちゃんだけが、仕事に行くの？」私は怒った。「お爺ちゃんは郵便局で仕事をしているから、みんなのところへ家族の人からの手紙や、挨拶などを届けるんだよ。茜も年賀状をたくさんもらって、うれしかったらう？いい子にしている、美味しいものを買ってくるよ。楽しみにしているね」お爺ちゃんはいつもの笑顔で答えた。お爺ちゃんの前でたくさんの年賀状を持って自慢していた私は、啞然とした。物知らずの私ははじめてお爺ち

ゃんの仕事の大切さがわかった。隣の家からお祝いの声が聞こえてきて、相変わらず羨ましかった。でも、お爺ちゃんみたいな人が、この正月の夜、徹夜で頑張っているからこそ、たくさんの家族がそんなにも幸せになれるのだ。幸せを味わっている人たちの後ろでは、その幸せのために、努力をし続けているヒーローがたくさんいるのだ。この静かなお正月の夜の中、何気なく、年賀状を数え始めた。1枚、2枚、3枚……。静けさの中で眩く。お爺ちゃん——私はヒーローを待っていたんだ。

(チョウ セイ
博士後期課程 社会学専攻 第1学年)



アンパンマンハート

藤井 政昭

『ヒーロー』そう言われた時、あなたなら何を思い浮かべるだろうか。「才知武勇に優れた大物。そんな人が、私のヒーローだ」なんて格好の良いことは、辞書をひいて、やっと、口に出せる程度。何せ、何を隠そう私のヒーローは、アンパンマン。そう、まさしく彼であり、他の

何者でもない。

やなせたかし氏から生み出された最初のアンパンマンは、現在のアンパンマンと違い、普通の人間だった。お腹の空いた子どもにアンパンを届けるストーリーは変わらないが、現在の姿とは大きく異なり、また人顔よりも現在のパン顔の方に人氣が

C O N T E N T S

- p. 2…私のヒーロー・ヒロイン
- p.10…CAMPUS-TOPICS
- p.16…2004年度「パソコンに関するアンケート」集計結果報告
- p.17…学問のしおり
- p.18…国際交流トピックス
- p.24…2004大谷大学紫明祭
- p.26…Keiji-Ban
- p.29…学生相談室から
- p.30…谷大エリア散策
- p.31…写真でふりかえる大谷大学今昔
- p.32…研究室だより／学会だより
- p.34…出版物紹介
- p.35…大谷中学校・高等学校
九州大谷短期大学からのお知らせ
- p.36…SQUARE

表紙のことば

「アツアツ、おひとついかがですかー！」

笑顔で声を張り上げる。私たちのお店の最高傑作はごちそうじゃない。大好きな仲間たちと完成させたごちそうさまの一言を大切にしたい味！

学園祭—
誰もが、誰かのヒーロー・ヒロインになれるはず
秋空に映える色とりどりの眩しさ
ヒーロー・ヒロインたちの笑顔が
咲き誇る
秋が青い春になる

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたためることの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

集まったようである。しかし、大きな違いとして注目すべき点は、アンパンマンの困っている人々にパンを供給する方法である。初代アンパンマンは人間なので、もちろん顔を供給することができず、持ってきたパンを手渡していた。今のアンパンマンは、困っている人々にパンでできた自分の顔をちぎって供給している。そんなアンパンマンの物語を遡るとアンパンマンが、子どもらに顔をまるまる与えていたという衝撃的な内容の物語がある。

このとき顔のないアンパンマンは、おそらくフラフラになりながら、パン工場へと帰っていただろう。もしその時、誰かに見られてしまえば、もうこれは正義の味方どころの話ではない。しかし、ここで踏みとどまって考えてみたい。たとえ、顔をまるまるあげて不気味な姿に

なったとしても、それはお腹の減った人に自分の顔であるパンをあげた結果である。そこには、自分を顧みることなく、困っている人を真っ先に考えようとする誠実で温かい心があるのだ。今の社会では、多くの人々がお年寄りに電車やバスで席を譲ろうとしないし、優先座席の近くだからといって、携帯電話を切るわけでもない。私を含め、このアンパンマンのころ、国民的アイドルグループの楽曲の曲名になぞらえれば“アンパンマンハート”が埋もれてしまっているのではないか。

しかし、そんな心を持ち続けながらも、アンパンマンには弱点がある。一度、アンパンマンを見たことがある人ならおわかりだろうが、それは、顔が濡れるということだ。なんともあの弱り方は半端ではなく、バイキンマンにやられそうになること

請け合いである。が、そのピンチにジャムおじさん、バタコさん、チーズ、他にもたくさんの方がアンパンマンを輪のように囲み、みんながアンパンマンを助けているのだ。だから、「愛と勇気だけが友達さ」というアンパンマンのテーマソングの歌詞は、間違いだと思う。本当に真面目な話。助けることで助けられている関係だ。

私は、保育者を目指している。目標は大きな心を持ち、もちろん助けを借りるだろうけれど、壁にぶつかっても自分の力で乗り越えていける、そんな“アンパンマンハート”を持った保育者になることだ。アンパンマンは単にヒーローなだけではなく、目指すゴールでもある。

（ふじい まさあき）
（幼児教育科 第1学年）

私のキー・パーソン

山本 明奈



夏休み前、前期試験真っ只中、私の携帯が鳴った。「今年はどこ行く？」旅行の誘いの電話だ。旅行好きの私達は行き先について相談を始めた。「旅行好き」

が唯一、私たち2人の共通点かもしれない。

彼女とは、大学に入り、まだ友人も少なかった頃に授業で隣に座ったのがきっかけで知り合

った、年上の先輩である。彼女は少し人とは違う行動力を持っている。

ある日、遊んでいて終電を逃した時も、タクシーを拾い、彼

女は普通5,000円近くかかる自宅までを「2,500円で行って下さい」とタクシーメーター制の日本にもかかわらず、料金交渉を行うつわものだ。またある日は、授業終わりに突然何か閃いたかのように、野球観戦に行こうと大阪ドームまで引っぱって行かれたこともある。しかも、彼女は敵チームの応援席の方が、好きな選手が守っているポジションに近いからと敵チームの席でその選手の名前を叫んでいるのだ。

優柔不断の私にとって、彼女のようにぐいぐい引っぱってくれ、思いつきで行動するタイプはめずらしく新鮮な存在であったのだ。

昨年の夏休みには2人で旅行に行った。行き先はタイ。しかも9日間も2人で過ごすことになるかなり長期の旅行であった。私はそれまで、1人でいた

い時、他人に自分の空間まで踏み込まれたくなくて、2日以上誰かと一緒にいるのが苦痛で仕方なかった。

しかし、彼女とは「行こか!?!」「行くわー!」のノリでタイへ9日間も行けたのだ。何故だかよくは解らないが、落ち込んだ時も、彼女が私のテンションまで上げてくれるからであろうか。また、私がほおっておいてもらいたいのにも、でも1人でいたくない、そんな時にも彼女は気分転換のきっかけを与えてくれる。明るく「～しよう!」と提案してくれるのだ。

タイ旅行でも彼女は得意の英語を活かし、すぐに友達を作っていた。また、滞在していたホテルの横にあったコンビニエンスストアに毎日行っているうちに店員と仲良くなり、その店の店員4人と飲みに行った。さらにタイのカラオケも体験した。

おそらく彼女以外の誰とタイに行っても、こんな体験はできないであろう。

彼女は会って間もないタイの人ともすぐに打ち解けられ、コミュニケーションも楽にとれる。そんな行動力と積極性には感心させられっぱなしだ。そんな彼女と次に行く旅行では、私も沢山のひととコミュニケーションをとりたいと思い、英会話学校に通うようになった。英語に興味を持てるようになったのも彼女のおかげだと思う。

私は、この先も彼女と一緒に旅行しては、新しいもの、考えを発見できることを楽しみにしている。

皆さんも「尊敬できる友人」をこの大谷大学で見つけてみてはどうでしょうか。

(やまもと あきな)
(文化学科 第2学年)



小さなヒーロー

大久保 明香

「私にとってのヒーローって誰?」と聞かれても、私にはすぐに思い浮かぶ人物はいなかった。良い機会なので少し考えてみることにした。でも、なかなか

か思いつかない…。しかし、考えるのをやめたとき、私は私の中のヒーローを発見した! 彼は、そのとき初めて現れたのではなく、元々私が知っていた人

物だった。

その人物とは、漫画『ONE PIECE』に出てくる、トニートニー・チョッパーである。彼は、小さいし、妙なトナカイだし、

恥ずかしがり屋で臆病なところもあるけど、とても勇敢で格好いい、そしてかわいいトナカイの医者なのである。

それは、ある日のできごとだった。私は、慣れない教育実習で日々の疲れが溜まりに溜まり、朝だというのに疲れ果てながら、実習校までの道のりを自転車で走っていた。ちょうど道のりの半分くらい走ったところに彼はいたのだ。もちろん、チョッパーは漫画中の人物であり、実物がそこにいるはずはない。そこには、誰かが落としていったチョッパーのマスコット人形があったのだ。拾った人が、落とした人がすぐに見つけられるように配慮してあったのか、それはバス停のそばにおかれていた。

バス停の近くを通ったとき、

私は彼の姿を目にした。その瞬間、それまで疲れや緊張で、身体的にも精神的にも参っていたのだが、「よし！今日も一日頑張るぞ！！」と思えたのである。彼の存在が、私の疲れや緊張を一瞬でほぐしただけでなく、さらに元気を与えてくれたのではないだろうか。果たして、彼をヒーローと言わずして誰をヒーローと呼ぶのか。私は、すぐさまそう思ったのである。

ここで、少しチョッパーについて説明してみよう。チョッパーは、トナカイであったが、「ヒトヒトの実」という悪魔の実を食べてしまったために、人ともトナカイともつかない姿になってしまい、周りからは迫害されていた。そんな彼を拾ってくれたのは、変人で評判な医者ドクター・ヒルルク。彼のそば

について、チョッパーは医学を学んだ。どんな病気でも治せるということを信念に、今は海賊船の船医として頑張っているのである。小さい体に大きな信念を持っているチョッパーは見た目はかわいい姿をしているのだが、なぜだか格好いい！と思えるそんな人物なのである。

もっとチョッパーのことを知りたいと思った人は是非とも漫画を読んで欲しい。なぜなら、私だけのヒーローにするには勿体無いと思うからである。彼は、私だけではなく、もっと多くの他の人の心とからだを癒すことのできる偉大な医者（ヒーロー）であると信じているからである。

（おおくぼ あすか）
（史学科 第4学年）

「落書き少年と小太りおじさん」

西岡 成志



バルザックの作品を読んだことがなくても、その名を知っている人は多いのではないだろうか。古くはドラゴンクエスト、に登場する敵キャラ、現在ではバンド名として知られている。また、映画の中にもバルザック

の名前や作品名が出てくる事がある。私が初めて名前を知ったのは、小学校1年の時にドラクエをプレイしてだが、作家だと知ったのは高校3年になってからである。

小、中、高の授業中、私はあ

る事に熱中していた。それは、教科書やノート、机、果ては教室の壁にまで落書きをすることである。その中でも特に国語の教科書内に幾つも載っている作者の顔に大幅なアレンジを加える行為に力を注いでいた。その

時の集中力は凄まじく、気が付けば下校時刻になっていることも度々あったくらいだ。何故国語の教科書なのか？歴史の教科書でも良いじゃないか、と思われるかもしれないが、そこには私ならではのコダワリがあった。国語と歴史の教科書とでは、微妙に紙の質が違って、ケシゴムのすべり具合や、シャーペンの黒色ののり、それと写真のクオリティーの高さ等を考慮して国語の教科書を選んだのである。中学時分にはラクガオ（当時写真などの顔に落書きすることをこう呼んでいた）の技術も格段に上がり、高校入学後も日々精進していた。そして完成した作品を一部のファンに見せては満足していたように思う。その頃の鞆の中には国語の教科書と筆記具しか入っていなかった…。その後順調に作品を増やし、遂に高三の教科書を制覇して、しばし達成感を味わってい

たが、国語の資料集という獲物があることを思い出した。家に帰り早速チェックしてみると、なんとその中にバルザックという太ったオッサンが載っているではないか！これが作家バルザックを知った瞬間であった。結局紙質が一定の水準を満たしていなかったため、バルザックに筆を加えることはなかった。

それから月日が経ち、昨年並木先生の授業でバルザックの作品を読む機会があったのだが、特に期待はしていなかった。しかし、人や物についての細かい描写や、文体の堅苦しくないところなどに、おもしろさを感じた。バルザックが生んだ百篇近い小説は「人間喜劇」という総題がつけられ、連作でなくても繋がりがあり、ある作品で主人公だった人物が他の作品に脇役で出て来たりする。また様々な職種の間人を2,000人以上登場させ、社会そのものを小説で表現

したのである。何篇も読むことで見えてくる人と人との繋がりもあるが、新たな謎も次々出てくるので興味が尽きることがない。バルザックほど人間や社会を濃く書ける作家はいないだろう。

これだけ誉めると立派な人物だったと勘違いされるかもしれないが、実際は借金をしまくり、本が売れても金を返さずに骨董品を買い漁ったり収入以上の出費をしていた。借金取りから逃げるための旅行もあったとか。また数々の女性とのスキャンダルを起こし、下品なことを言い人を不愉快にさせ、友達も平気で裏切るような最低な男であった。しかし、そのすべての経験が小説に活かされている。真面目な人間におもしろい作品は書けないと思う。なので私には書けないだろう。

（にしおか なるし）
国際文化学科 第4学年



変遷するヒーロー

植垣 光弘

私にとって、ヒーローとして真っ先に思い浮かぶのは「ウルトラマン」と「仮面ライダー」である。保育園や小学校の頃、

近所の友人と帰り道の川原や田んぼでウルトラマンごっこや仮面ライダーごっこをして、川ではびしょびしょに、田んぼでは

泥だらけになって家に帰ったものである。

さて、今回「私のヒーロー」として書くにあたり、自分にと

ってのヒーローってなんだろうと考えると、「強くて、カッコよく、わかりやすい」ものであったと思う。ワルモノの怪獣や怪人がでてきて街を破壊し、悪さをおこなう。しかし最後にはウルトラマンや仮面ライダーが必殺の一撃で倒すという、シリーズをとおしてマンネリではあるが、子供にはわかりやすいストーリーであった。

私のころのウルトラマンとはウルトラマンタロウであり、仮面ライダーとはストロンガーであったが、それぞれの最終回近くにはウルトラ兄弟、仮面ライダーが勢揃いすることがあり、「今まで何してたんだろう・・・」と子供心に思いながらも、大変興奮してみていたのを覚えている。翌日の帰り道は、誰がどの役をするのかで揉めたものである。

友人の一人が、ある田んぼの畦道から下の段の田んぼに仮面ライダーの必殺技「ライダーキック！！」と叫んで飛び降りたところ、見事に肥溜にはまったことがあり、小さな田舎のことで今だに皆にからかわれている。本人には気の毒なことであるが、そのときの様子はいまだに鮮明に覚えており、懐かしく感じる出来事である。

現在、仮面ライダーは「仮面ライダーブレイド」として毎週日曜日に放送されている。子供に無理やり起されて、眠い目をこすりつつ一緒に見ているが、「なぜブレイド（主人公）は弱い？」「なぜ仮面ライダーどうして戦うの？」と1話でも見逃すとストーリーが理解できず、子供に聞いて鬱陶しがられる始末である。悩みつつも、最後には最強の仮面ライダーとなるの

であろうが、果して20年後まで今の子供たちにヒーローとして記憶されているのだろうか。近所や公園で遊ぶ子供たちがヒーローごっこをしているところを見かけた覚えがあまりない。

少し話がそれてしまうが、最近、娘がかよう小学校で運動会があった。そこでの競技は、みんなが均等に参加するのが狙いか、クラス対抗や地区対抗といった代表によるリレーのようなものは一切なかった。

仮面ライダーやウルトラマンにはなれなくとも、代表として出場し、活躍すれば一時的なヒーロー（英雄）になれる、それが非常にうれしいものであったが……。いまの子供にとってのヒーローはどんなものなのだろう。

（うえがき みつひろ）
（教育研究支援課 職員）

花のいのち

赤瀬 知子



1998年2月1日、母方の祖母がとつぜん逝った。草花がなにもまして好きなひとであった。春はまだかと私の母にたずね、花の咲き乱れる季節を心待ちにしていたであろう矢先の、

思わぬアクシデント。享年94歳。祖母の第一の趣味は、園芸だった。祖父の建てた4階建てのビルの屋上と4階の東西、3階西側のベランダが、祖母の庭であった。といっても、祖母はそ

れほど高価な花を集めていたわけではない。むしろ祖母の本領は、子や孫、あるいは園芸仲間からもらった、2、3本の切花、1個の種、ひとつの苗、1株の鉢を、いかに根付かせ、伸ばし、

花を咲かせ、太らせてゆくか、というところにあった。だから、どんな花でもよかった。どんな草木でもよかった。五葉松が置いてあるかと思うと、横にカーネーションが咲き、牡丹の花のそばに、孫の食べたぶどうの種から育った木の蔓が這っていた。しかし、それらの花木を剪定するといったことを、祖母はほとんどしなかった。その結果、祖母の庭は本人以外には、まるでジャングルのように見えた。それでもその庭が、祖母には自慢なのであった。子や孫たちが遊びにゆくたび、祖母は「花をみるかー」とか「花を切ってあげよう」といって、屋上庭園へなかば無理やりにいざなう。学生時代、京都で下宿していた私も、そんな1人であった。が、アメーバのように増殖する植物群は、やがて怪物化し、祖父の

長年の夢であった4階建てのビルに、ある日、壊滅的な打撃をあたえた。ひびわれによる雨漏りだ。その原因の半分は、祖母の庭にあったという。

祖母の趣味でもう一つ大事なものは、読書。愛読書は『嵐が丘』『赤毛のアン』『ジェーン・エア』『風とともに去りぬ』など。すこぶるつきのロマンティストだった。暇があるときくり返し読んでいた。自分には経験できなかったドラマティックな人生に、ため息をついていたようだ。一方、多読でもあった。新聞はくまなく読んだ。

こう書いてくると、有閑マダムのような印象を与えるかもしれない。しかし、これらの趣味はあくまで余暇のもの。祖母は7人の子育てに追われ、家事に忙しかったし、商売も手伝わなければならなかった。そうした

役割を祖母は精一杯こなした。生後まもなく養女に出され、養母とともに下関、神戸の異人館、横浜、京城（ソウル）、平壤（ピョンヤン）、旧満州などを転々とし、小学校もろくに出ていなかった。ともあれ、ロマンティストでありながら、図太くたくましかった祖母。明治生まれの、女性解放運動などとはおよそ無縁の、だが、しいたげられつつもなお自分の好みを最期までつらぬき通し、一市井のひととして散った、見事な一生であった。そうした意味で私のヒロインだった。おばあさん、いつも2人で内緒でおやつを食べたよねえー。いつも花をありがとう。たくさんの楽しい思い出ありがとう。

（あかせ ともこ）
（助教授 国文学）

人 事

退職・依願退職

[教育職員]

須藤 訓任 (教授・文学部)

2004年9月30日付

[事務系嘱託]

村尾しのぶ (企画室)

2004年6月30日付

採用

[事務系嘱託]

大谷のり子 (企画室)

2004年9月1日付



文学部第1学年井野口雅子さん、マーチングバンドにて活躍！



井野口雅子さん

本学文学部国際文化学科第1学年の井野口雅子さんが、トランペット奏者として、参加するマーチングバンド大和 Drum and Bugle Corps (以下、大和) が、「DCIワールド・チャンピオンシップ デイビジョン」(以下、DCI) にて銀メダルを獲得しました。この大会は、2004年8月、アメリカ、コロラド州で行われました。井野口さんは、長年の夢であったDCIに出場するため、サクソからトランペットに転向し、日本人とアメリカ人で構成された「大和」に入団しました。井野口さんは、DCIの決勝に向けて、アメリカの合宿やツアーに参加し、練習に励む毎

日を過ごしていました。アメリカで人々の文化や習慣の違いに戸惑うこともあったそうですが、お互いが向き合って話をすることにより、団結力が強まり、演奏のスコアが飛躍的にアップし、今回の結果に繋がったそうです。また、本学文学部国際文化学科第4学年の大石温子さんも応援にかけつけました。

「あきらめないということが、何より大切だと思います。できる要素を自分で見つけ出し、自ら動くことが必要です」目をキラキラさせて、井野口さんはそう語ってくれました。

(企画室)

課外教育行事—異文化との出会い—

韓国の響き「Spirit of SANTA <散打>」開催！

去る7月2日(金)、本学講堂で在日韓国人3世の6名で構成される『散打(SANTA)』の公演を、α-stationエフエム京都 (FM89.4) の後援で開催しました。

散打は、韓国の伝統音楽をベースとして現代風にアレンジしたものを中心に、型にとらわれずに活動されています。

リーダーの関 栄治 (ミン ヨンチ) 氏は、大阪の中学を卒業後、単身で韓国へ渡り、ソウル大学音楽学科を卒業し、韓国で本格的な音楽活動を始められました。また、

韓国重要無形文化財第1号「宗廟祭礼楽」テグム (横笛) 継承者でもあり、現在は、韓国・日本両国で今最も期待される打楽器奏者として活躍されています。

当日は、チャンゴ、テグムといった韓国伝統楽器の演奏をはじめ、歌や舞踊、さらにはリズムトラックとのコラボレーションなど、韓国×日本×世界をキーワードに、幅広くエネルギッシュな公演となりました。

本学学生をはじめ、他大学生や一般来聴の方々で満席となった会

場は、打あり、歌あり、踊りあり、そして時には笑いありの大変楽しい時間を過ごすことができました。

(学生課)



韓国の響き「Spirit of SANTA <散打>」

留学生文化交流会開催！

7月3日(土)、2004年度第1回留学生文化交流会を開催いたしました。この交流会は、日本人学生と外国人留学生との交流を深め、併せて日本の伝統文化に親しんでもらうことを目的として年3回開催しているものです。

今回は外国人留学生11名、日本人学生12名、教職員12名で、フィールドワークの手法を取り入れ、あじさい祭開催中の大原三千院そして左京区のアミタ本店を訪れました。

午前中は、三千院へ向うバスの道中で沙加戸弘先生より三千院の由縁と洛北・比叡山の歴史についてのお話を頂き、参加者一同、歴史的な

背景を真摯に学びました。三千院では、紫陽花の花々を見ながら、各国の言葉で「紫陽花」という表現を教えあい、また、様々な仏像・石像を参拝しました。

午後からは、アミタ本店に場所を移動して京豆腐を中心とした昼食を味わい、京の食文化やそれぞれのお国料理についての話題に花を咲かせました。七味唐辛子の調合体験では、薄味文化の京都ならではの調合比率があると知り、それをベースに各々の好みにあった七味唐辛子を作り上げました。続いて、京象嵌細工の作成体験へ移りました。小さいといえども、プロと同じ技法に基づいて制作する本格的なもので、それぞ

れが思い描くデザインを一生懸命考え、小さなかなづちで一心不乱に金・銀を打ちつけること小一時間、それぞれ個性溢れる京象嵌が完成しました。

今回の交流会では、参加者全員が五感を使い、京都の伝統文化・美意識そしてお互いの国の文化の違いなどを理解する事ができ、有意義な交流を持つことができました。



七味唐辛子の調合体験

大谷大学文藝学会 公開公演会 開催

去る7月8日(木)午後1時より文藝学会公開講演会が響流館メディアホールで開催されました。

この講演会は、毎年7月上旬に国文学・中国文学両分野の教員が



申田文治先生

協力して開催してきました。今年は31回目になります。

今回は学外から桃山学院大学教授・申田文治先生をお招きしました。先生は「古代中国の童謡」というテーマで「歌と謡」「予言」「自然観」「占いと予言」「占星術」について『漢書』『史記』等を引用して熱心にお話してくださいました。

学内からは天野勝重専任講師が「近代小説で学生はどう扱われた

か」というテーマで、明治時代の小説を取り上げ、学生【書生、女学生】がどのように描かれているか、わかりやすく講演いただきました。

猛暑のなか、学内外から多数の方々に参加くださり、熱心に聴講され、意義深い講演会でした。

なお、両先生の講演の内容については、文藝学会の機関誌『文藝論叢』に掲載する予定です。

(石橋 義秀)

文化学科スピーチコンテスト開催

7月7日(水)午前10時40分より、響流館メディアホールにおいて、第4回文化学科スピーチコンテストが開催されました。このスピーチコンテストは、文化学科の必修科目「日本語表現」において履修するコミュニケーションプログラムの成果を確認し合うために開催されています。

今回は各クラスから代表2名ずつ、計14名によるスピーチが行わ

れ、コミュニケーションプログラムの講師陣から、過去の大会と比べても水準の高い大会との総評を頂けるコンテストとなりました。各賞は、「姿勢・態度」「表情・視線」「声の大きさ」等の評価に基づく、教員と学生のチェックシートによって、次の通り決定しました。

優勝

「詩を書くこと」 今井美里

準優勝

「どんな音がするのか」 田中真美
敢闘賞

「生きる」 野村温子

(中寫 容子)



代表者スピーチ

「近畿地区父母兄姉懇談会」開催

大谷大学教育後援会では、大谷大学・大谷大学短期大学部在学生の父母兄姉を対象に、毎年全国の数地区の都市において父母兄姉懇談会を開催しています。今年度は、高松・岐阜・名古屋・旭川・札幌の5会場で開催し、来る12月3日(金)富山・12月4日(土)金沢の2会場での実施を計画しています。

今年度はそれらに加え、去る9月25日(土)、本学を会場に近畿地区在学生の父母兄姉を対象とした「近畿地区父母兄姉懇談会」を約300名の父母兄姉を迎えて開催し

ました。

第Ⅰ部の全体会では、佐藤亨教育後援会長、木村宣彰学長の挨拶の後、引き続き大学の現況報告が行われ、本学に対するご理解を一層深めていただきました。全体会終了後、個別相談会ならびに響流館を中心とした学内施設見学があり、個別相談会では、博綜館5階会議室において、成績・進級、海外留学、進路・就職、学生生活、よろず相談の各コーナーを設置、参加された父母兄姉から多くの相談が寄せられました。

また、第Ⅱ部の懇親会は会場を京都全日空ホテルに移し、約70名の教職員の出席を得て、父母兄姉との和やかな懇談の場として有意義なひとときを過ごしました。

(校友センター)



個別相談の様子

同窓高校教員懇談会開催

去る8月20日に同窓高校教員懇談会を、博綜館第2会議室におい



懇談会の様子

て開催いたしました。この会は、大谷大学を卒業し、現在高等学校で教鞭を取っておられる先生方から、高等学校の現状をお話いただくとともに、母校である本学の今後の在り方を共に考え、連携をより緊密なものとしていくことを目的にして開催しています。昨年は台風のため残念ながら中止となりましたが、今年度は13名の先生方をお迎えして開催することがで

きました。

懇談会では大谷大学の入学制度や学生募集のあり方など、今後の大谷大学の方向を見定めていくうえでの貴重なご意見を多数いただくことができました。今後も毎年開催し、より有意義な関係を築いていきたいと考えています。

(入学センター)

インド写真展「慈悲の足跡」開催

9月7日より9月25日まで響流館1Fギャラリーにて、写真展「慈悲の足跡」が行なわれました。これは本学・インド大使館・インド総領事館と共同主催で行われ、7日のオープニングセレモニーでは、M.L.トリパティー駐日インド大使、R.O.ワラン在大阪・神戸インド総領事ご臨席の下、木村学長から、過去のインド著名人の来学の様子や毎年行われているインド研修についても触れながら、開式の挨拶を頂きました。この展観で

は、インドで有名な美術史・写真家であるビノイ・K・ベール氏が撮影したインドおよび周辺諸国の仏教遺跡・美術遺産の写真83点を公開しました。特に石窟に描かれた壁画の写真は、人工光を使用せず、卓越した長時間露出の撮影技法を用い、繊細な色彩を鮮明に切り取り、いにしへの画家達の微妙な筆遣いまで表現しています。会期中、連日数多くの方々にご来場頂き、ベール氏が開催にあたって寄せられたメッセージである「慈

悲の教えを日・印両国の国民が共有し、大切にしてほしい」との願いを多くの方々と分かち合うことが出来ました。

(企画室)



三者による開会式テープカット

前期卒業証書・学位記授与式を挙

9月30日(木)、2004年度前期卒業証書・学位記授与式が講堂において挙行されました。文学部70名、短期大学部2名の卒業生及び大学院修士課程修了生1名に、卒業証書並びに学位記が授与され、木村宣彰学長の告示に続いて、真宗大谷学園藤野護理事より祝辞が述べ

られました。

引き続き、多目的ホールにおいて同窓会主催による祝賀会が開催されました。卒業・修了と同窓会への入会を祝って、卒業生、修了生、ご父母並びに教職員が一同に会し、和やかなひと時をすごしました。



授与式の様子

103回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙

10月13日(木)、第103回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要が挙行されました。10月13日を開学の日とするのは、近代の大学として出発した1901(明治34)年の開校式が挙行された日より



佐々木 毅 東京大学総長

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者の表彰並びに大谷大学育英奨学生等の証書授与と記念講演が執り行われました。

今年勤続30年を迎えられ、永年勤続者の表彰を受けられた職員は8名でした。教育職員の佐々木令信・鈴木幹雄両教授及び禿憲仁助教授、並びに事務職員の今村節子・宇津木秀司・滝正導・禿義裕・松原文孝の各幹事に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、東京大学総長 佐々木毅氏より「21世紀における高等教育の課題—何を、どう学ぶべきか—」と題して講演を頂きました。

佐々木氏は、現在の高等教育は専門分野の細分化が進んだ結果、相互交流のない閉塞化した状況にあるとお話になりました。そしてこれからの大学は、文系理系を問わず各専門をつなぐコミュニケーション力が必要であり、その力をもって社会にメッセージを発していくことが大切であるご指摘下さいました。「宗教学校」として出発した大谷大学が、またそこで学ぶ私たちが、自らの学びをどのように社会に公開していくべきなのか、改めて問われるお話でした。

(総務課)

東國大學校が本学を訪問

7月2日(金)、本学学術交流協定校のひとつである東國大學校(韓国ソウル)の金昌奭理事長、李法山正覚院長、李衡烈法人秘書課長、金煥基日語日文学科教授が木村宣彰学長を表敬訪問されました。

東國大學校は仏教精神を基盤として1906年に創立された私立の総合大学です。キャンパスはソウルと慶州にあり約3万人の学生が学んでいます。仏教、仏教文化、教養、自然科学、法学、経済、医学、教育、芸術学部があり、最近では、芸術学部から有名な俳優を送り出していることが大きな話題になっています。仏教学部には仏教学科、

インド哲学科、禅学科があり、海外からの学生も学んでいます。

本学と東國大學校との交流は1996年から始まり、1997年には教員・研究者の交流や学生交流などを内容とする学術交流協定を締結しました。おもな交流には1998年から開始された共同研究「日韓仏教信仰比較研究」や交換留学生交流があり、今年度も第4学年国際文化学科西島幸美さんが東國大學校で学び、東國大學校からは博士後期課程インド哲学専攻の姜香淑さんが本学の外国人留学研究生として学んでいます。

訪問当日は、これまでの両校の

交流を振り返りつつ、今後の新たな交流の可能性について和やかに意見交換が行われ、今後ますます友好を深め、交流を推進していくことが確認されました。

(教育研究支援課)



記念品を交換する金理事と木村学長

東北師範大学「国際交流と留学生教育研究検討会」開催

7月19日(月)から23日(金)まで、中国の学術交流協定校の東北師範大学(吉林省長春)において「国際交流と留学生教育研究検討会」が開催されました。参加者は東北師範大学と学術交流協定を締結しているモンゴル、日本、韓国、ネパールの大学や高等学校、研究機関の国際交流や留学生教育に携わる教職員で、本学からは教育研究支援課の八木孝枝国際交流チームリ

ーダーが参加しました。シンポジウムでは東北師範大学国際交流担当副学長の楊忠教授や国際交流處長の趙俊峰教授を始め、留学生教育に携わる教員から留学生教育の現況と教育改革について説明がありました。また検討会ではこれからの国際交流のあり方と留学生教育の発展をテーマに、各国担当者から教育内容や留学生選抜方法、学費の問題などについて熱心な討

議がくりひろげられました。

(教育研究支援課)



シンポジウム会場

首都師範大学創立50周年記念式典参加

中国北京の首都師範大学が創立50周年を迎え、10月4日から6日の日程で記念行事が開催されました。

記念式典には本学も招待され、宮下晴輝文学部長(木村学長の代理出席)、小川一乗前学長、沙加戸弘真宗総合学術センター長、渡部洋助教授が列席されました。

記念式典に先立ち、10月5日には、「高等教育の国際化」をテーマに、7カ国14名の協定校の学長による国際フォーラムが、国際交流の拠点となる国際文化大厦ホールで開催されました。

宮下文学部長は、社会や経済のグローバル化には地球を人類の共有財産として地球市民を育てる教育が不可欠であること、それには

互惠型の教育交流が必要である、と木村学長発表原稿を代読されました。また、小川前学長は、「日本の私立大学の今後」をテーマに、それぞれの社会・宗教・文化を互いに尊重し合い個性を発揮する精神を高等教育の国際化の基本としなければならない、と発言されました。

10月6日の記念式典の出席者は10,000人を超え、夕刻の記念野外コンサートは25,000人を超えるなど、盛大な記念行事となりました。

本学訪問団の案内役は、同大学日本語学科の4年生の蔣桐さんがつとめ、流暢な日本語でサポートしてくださいました。

本学と首都師範大学は、1997年に学術交流協定を締結し、今年の

夏には、首都師範大学で短期語学研修を実施しています。また、本学は10月から首都師範大学大学院生を留学研究生として受け入れています。

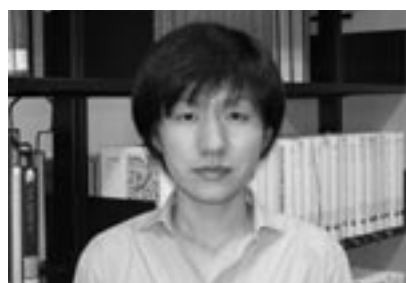
今後は、学生の交流も含め、両校の交流がますます盛んになるものと期待されます。

(教育研究支援課)



許学長(右から2人目)に記念品贈呈

任期制助手 仁木夏実さんが、博士(文学)の学位を取得



仁木夏実さん

2004年9月、本学任期制助手である仁木夏実さんが、大阪大学から学位論文「院政期漢詩文の研究」により、博士(文学)の学位を取得されました。

福井県への災害復興ボランティア

今年7月の豪雨及び台風10号は、福井・新潟の両県に大変深刻な被害をもたらしました。その災害復興のため、大学が学生ボランティアを募集したところ多数の志願者がありました。日程などの都合により、その中から13名の学生(科目履修生、留学研究生を含む)



ボランティア先にて

を選び、職員2名と共に、8月3日から5日までの3日間、福井県鯖江市の河和田地区に行くことになりました。

現地にはまだあちこちに水害の生々しい痕跡が見られ、すでに全国各地からの大勢のボランティアの方々が活動されていました。我々が河和田ボランティアセンターから任された作業は、畑にたまった土砂の除去や家屋の清掃、床下にたまった泥や礫の除去作業などでした。学生たちは、頻繁に水分補給をしながらも炎天下での作業をすすめ、また床下にもぐりこんで泥まみれになりながらも泥の除去作業を黙々とこなしてしまし

た。

全員大きな怪我もなく無事に日程を終えることができましたが、それは、このような状況にも関わらず精一杯の対応をしていただいた被災地の方々やボランティアセンターの皆さん、また宿泊施設として快く本堂を提供していただいた長休寺(福井市)さんの温かいお心配りがあったからこそだと言えるでしょう。

復旧が完了するにはまだまだ長い時間が必要だと思いますが、被害を受けた皆さんが少しでも早く元の生活に戻れるよう願うばかりです。

(学生課)

『西谷文庫目録』刊行

このたび図書館では、京都大学名誉教授・元大谷大学教授・故西谷啓治先生の旧蔵書を取めた『西谷文庫目録』を刊行しました。

この文庫は、西谷先生がそのご生涯を通して蒐集されたほぼ全ての蔵書を逝去後ご遺族のご好意によりご寄贈いただいたもので、このほど漸く整理を完了し公開されるものです。

目録には和書6,807冊、洋書

3,900冊、線装本433部を取っていますが、先生ご自身の書入れのある書物が多く、西田哲学を継承する宗教哲学者として世界的に知られた先生の思索の基盤を窺い知ることができます。

西谷文庫蔵書は冊子目録、CD-ROMでも刊行公開しますが、大学HPの「図書館・情報検索」からも検索可能です。

(図書・博物館課)



『西谷文庫目録』左：和書の部
右：洋書の部

中学生の「生き方探求・チャレンジ体験」受け入れ

8月20日(金)~24日(月)、京都市立衣笠中学の生徒2名が、中学校の学習活動の一環としての「生き方探求・チャレンジ体験」学習に訪れました。この活動は、《生徒が自らの希望に基づいて広く社会に出て、様々の体験活動や多くの人達とのふれあいを通して、自分を見つめ直し、よりよい生き方を考え将来を切り拓いていく力や態度

を育成するなど、多くのことがらを学ぶ機会》として実施されているもので、学校のある地域の多くの事業所が協力して受け入れているものです。

本学では、2年生の平木大嗣君、佐野真嗣君の2名を受け入れ、大学の事務職員の仕事を体験してもらいました。初日は企画室にて書類整理・ファイリング体験などを

し、残り2日間は大学図書館にて図書整理作業の手伝いをしました。

(企画室)



書類をファイリング

2004年度「パソコンに関するアンケート」集計結果報告

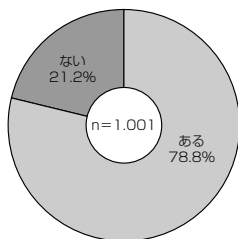
2004年4月に「パソコンに関するアンケート」を実施しました。「聴講登録書類」とともに配布し、1,001人の方から回答を得ることができました。

このアンケートは、全学生を対象とした大谷大学「学生向け情報提供システム」のサービス内容や有効な配信方法などを検討するための基礎データとし、今後のシステム改良に反映させるために実施したものです。

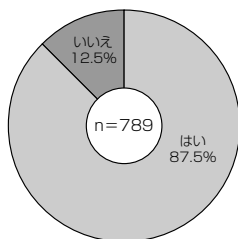
アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

なお、集計結果は以下の通りです。

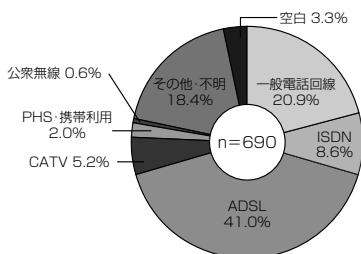
(設問1) 自宅・下宿等であなたが使用できるパソコンがありますか？



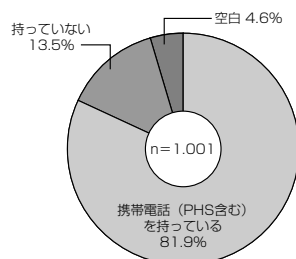
(設問2) そのパソコンはインターネットに接続できますか？



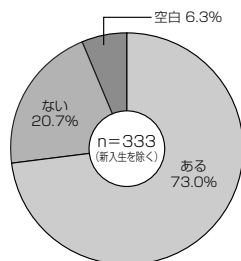
(設問3) 接続方法(回線の種類)を教えてください



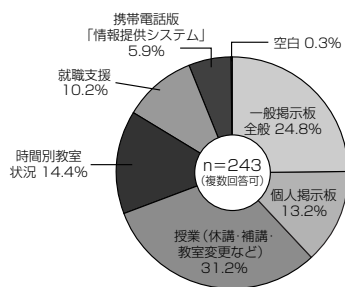
(設問4) インターネット接続できる携帯端末を持っていますか？



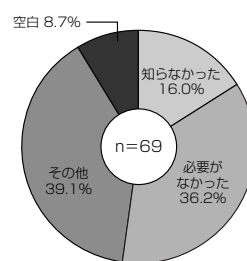
(設問5) 大学ホームページ「情報提供システム」にログインしたことがありますか？



(設問5-1) ある(システム名は?)



(設問5-2) ない(理由は?)



<学生向け情報提供システム TOPページ>



<パソコンに関するアンケート>

◆お知らせ◆

「学生向け情報提供システム」では、【休講情報】・【時間別教室状況】・【携帯電話版の稼動】・【就職支援】といった各種サービスを提供しており、これからも順次サービスを拡充させていく予定です。詳細につきましては、「学生向け情報提供システム」内の【一般掲示板】などで随時報告いたします。是非ご活用ください。

◆まだ利用されたことのない方のために…

◆「利用方法」◆

大谷大学・大谷大学短期大学部ホームページ (<http://www.otani.ac.jp/>) から「学生向け情報提供システム」にログインしてください。(システムについてわからない時は、ログイン画面の【ブラウザの設定について】【よくある質問】を参照してください。)

学問のしおり

名前が哲司で、専攻が哲学だということ、まさに名前の通りですね、昔から哲学が好きだったんでしょうねと、よく尋ねられる。だが、実はそうではなく、むしろ高校時代は哲学を含め文系の学問を軽んじていた。ニーチェを読んで超人について語る級友を、わけのわからない変人と見ていた。数学のように論理的に考えていくことで明確な解答に到達できる理系の学問が好きだった。

したがって、浪人はしたものの、大学は理学部に入学した。子供の頃から人と接するのが苦手であったため、ひとりでこつこつ研究できるだろうと理学部を選んだのである。理系といっても、工学部は産業界との接点が多いだろうし、医学部は患者である人と向かい合わなくてはならない。物を相手に研究室で一生暮らす、これが当時の理想であった。

しかし、この目論見はすぐに崩れた。昨日までの友人が、政治的立場の違いが明らかになったとたん口をきいてもく

れないのだ。たしかに全国で大学紛争が起こり、各人の政治的立場が否応なく問題になりはしたが、政治的対立によって友人関係までもが断ち切られてしまうということは理解できなかった。人の心というものが、改めてわからなくなった。物を研究する前に人の心を明らかにしなくては、今後生きていくことはできない。そう一途に思いこんで理学部から文学部へと転部した。

心を知るためにまず心理学を勉強した。学習心理学や発達心理学の講義を受け、教育学部で開講されていた臨床心理学の授業にも出席した。同時に哲学関係の講義も聴講した。そして2回生の冬に、3回生からの専攻決定のためにオリエンテーションが開かれた。教室の一番後ろで壁にもたれて立っていると同じクラスのMがやってきた。「どこにするんや」とM。「心理学か倫理学」、「おれもそうや」。それだけでMとは別れた。翌年四月、Mは心理学に進み、自分は倫



物から心、そして人へ

池上 哲司

理学に進んだ。

心理学にするか倫理学にするか最後まで迷った。自分にとっては、どちらでもよかった。それでも最終的に倫理学を選ぶことになったのは、倫理学担当の先生の一言による。「倫理学は所詮偽善者のするものです。そのような者として一緒に勉強していきましょう。」皮肉な言い回しで、嫌みにもなりかねない言葉をその先生はさらりと言われた。その言い方の誠実さがこちらに響き、この先生のもとで勉強したいと思ったのだ。

学部での2年間、さらに修士・博士課程の大学院での5年間、あの先生の指導を受けることになった。50枚の卒業論文では、自分の抱えていた問題にすっかりした答えを見つけることはできなかったし、大学院で勉強を続けても逆に問題の難しさを知らされるだけであった。そのことを先生にお話しすると、「そうでしょう、難しいものです」と微笑みながら言われる。その度に、先生でも難しい

のだから自分に難しくても当然なんだと勇気づけられて、なんとか研究を続けることができた。難しいことは難しいと、わからないことはわからないと認めること、その知的誠実さこそが大切であると先生は言われていたのであろう。

オリエンテーションの冬から30年以上たった。Mはチンパンジーの知能の研究から人間の心の不思議に迫ろうとしている。倫理学担当のあの先生は数年前に病気で亡くなられた。物理学から心理学、そして倫理学という「物から心、そして人へ」という自分の歩みが正しかったのかどうかは今でもわからない。しかし、自分の進む道に悩んでいる学生諸君に対しては、その悩みを性急に解消するのではなく、その悩みに立ち止まって考えることの大切さをなんとか伝えられたらと考えている。

(いけがみ てつじ 教授 倫理学)

2004年度 海外研修を終えて

中国 首都師範大学 語学研修

8月1日(日)～8月29日(日)

参加学生数 14名(引率者2名)

- 首都師範大学にて語学研修
(4週間)
午前 授業
午後 自由行動
- 週末小旅行
万里の長城、明の十三陵
承德避暑山荘
十渡
- 観劇
京劇
雑技



修了式にて

本年の語学研修は昨年のSARSの影響もあり、2年ぶりの実施となりました。首都師範大学とは以前から交流があったものの、語学研修の実施は今年がはじめてです。

首都師範大学は北京市内の3番目の環状線路の西に位置し、交通の便にも大変恵まれています。北京市のために教師を養成する名門校でもあります。

語学研修は3日から本格的に始まりました。授業は月曜日から金曜日までの午前中です。内容は「総合中国語」、「会話」、「視聴覚」、「太極拳」、「中国画・書道」という5科目に分かれています。うちの「総合中国語」、「会話」はメイン科目で、ほぼ毎日ありました。その他の科目は週に1回程度でした。

最初の1週間は慣れないことも

あって、授業はほとんど聞き取れず、落ち込む学生がいました。しかし、買い物、食事を通じて、更に中国の友人ができることによって、日常会話は徐々に身につけるようになり、日々の生活も次第に楽しくなりました。

週末は市内または地方への旅行をしました。大手旅行社が旅行の全行程を受け持つことははじめての試みでした。2週目の土曜日は万里の長城、明の十三陵に行き、日曜日は京劇を観賞しました。3週目に、2泊3日で北京から240km離れた清朝王室の避暑山荘がある承德へ行ってきました。4週目に、北京郊外の十渡に出かけたり、雑技を観賞したりしました。内容の豊富な課外活動を学生たちは大いに満喫したようです。

中国語学研修団には常に下痢がつきもので、今回も例外ではありませんでした。北京の名物料理「羊のしゃぶしゃぶ」を食べた学生グループは下痢にやられました。のちほどお世話になった「北京SOS救援センター」の日本人医



天安門広場にて

師から「慣れないうちに、日本人は羊のしゃぶしゃぶを食べない方が良い」と教えられました。誠に驚いた話です！

一行の北京滞在中は天候にも恵まれ、特に後半はエアコンを使うことがなく、快適に過ごせました。首都師範大学の至れり尽くせりの歓待を受けたことに心が暖かくなりました。勉強の他に、生活の面に置いても多大な支援をくださった日本語科3学年の蔣桐君にも感謝の意を申し上げます。

短い語学研修でしたが、学生たちは異文化の中でさまざまな体験をしながら、言葉を覚え、実りのある1ヶ月だったと思います。中国で習ったことを今後の学習に大いに生かしてほしいと願うばかりです。

(李 青)



首都師範大学正門にて

英国 ノッティンガム大学 語学研修

8月6日(金)～9月2日(木)
参加学生数 11名(引率者2名)

- ノッティンガム大学にて語学研修(3週間)
 - 午前 授業
 - 午後 自主学習と個別指導
- 文化研修旅行
 - Stratford-upon-Avon, York, Cambridge
 - Sherwood Forest
 - D. H. Lawrence Museum
 - Newstead Abbey
- 観劇
 - Alice Through the Looking-Glass
 - Dracula
- ロンドンにて文化研修(4日間)



修了式の後、ノッティンガム大学にて

本年の英国夏期語学研修は昨年度に引き続き、ノッティンガム大学で行なわれました。

ノッティンガム大学のキャンパスはそれ自体が一つの広大な公園になっています。学生たちは緑豊かなキャンパス内の大学寮に3週間滞在し、毎朝、15分かけて芝生を横切り教室まで通いました。

授業は昨年度担当されたニール・テイラー先生が、文化研修の予備的な内容も含めた授業計画を立て、他の二人の先生と協力して、懇切丁寧に教えて下さいました。初めは緊張気味で英語が出てこなかった学生たちも、少しずつ環境に慣れ、二度の発表（グループでの発表と個別発表）では、キャンパス内の様々な人たちへのインタビューやコンピューターによる検索などを駆使しつつ、意欲的で興味深い発表をしていました。

ノッティンガムはロビン・フッドの伝説を生んだ地として知られていますが、到着して最初の日曜日にはシャーウッドの森を訪れ、ロビン・フッド・フェスティバルを見学しました。また、郊外には20世紀の小説家D. H. ロレンスの生家やロマン派の詩人バイロンが相続し、しばらく住んでいたニュ



授業風景

ーステッド・アビーと呼ばれる中世からの古い屋敷もあり、それらを見学することにより、イギリスの奥深い歴史・文化の一端に触れることができました。

ニューステッドでは、「鏡の国のアリス」の野外劇を見ましたが、朝から雨が降り続き、夏とは思えない寒さに一同震え上がり、途中で切り上げて帰った事はとても残念でした。もう一つの「ドラキュラ」はノッティンガム市内の劇場で上演され、こちらはスリラーの中にもイギリス的なユーモアがあふれ、十分に楽しめる内容でした。

週末にはまた、他の留学生たち

と一緒に英国国教会の大聖堂があるヨークや大学町ケンブリッジを見学しました。

授業以外によい思い出となったのは、ニール先生の案内で市内のクラブに全員で行き、イギリスのナイト・ライフを経験したことです。イギリスでは商店街は夕方にはすべて閉まり、町は一旦静まり返ってしまいますが、夜になるとバーやクラブなどに人が集まり、昼間とは全く違った賑やかさを見せ始めます。私たちが行ったクラブではバンドの生演奏が雰囲気を盛り上げ、ビートルズの曲に合わせてみんなでダンス(?)を楽しみました。

ロンドンでは、それぞれが博物館や美術館巡り、衛兵交代の見物、観劇など自由活発に動き回り、実りの多かったイギリス研修を締めくくることができました。

振り返ってみるとあっと言う間の4週間でしたが、学生たちにとっては一日一日が新しい経験と発見の連続だったと思います。これを一つのステップとして今後も大きく羽ばたいていって欲しいと思います。最後にイギリス研修が今後もますます内容を充実させて継続されることを願っています。

(村瀬 順子)



ロビン・フッド像の前にて

インドの宗教と文化 現地研修

第1班 8月29日(日)～9月11日(土)
参加学生数 23名
(引率者2名)

第2班 9月5日(日)～9月18日(土)
参加学生数 27名
(引率者2名)

○仏跡研修：サヘート（祇園精舎）・マヘート（舎衛城）、ルンビニ（マヤ堂、アショカ王石柱）、カピラ城跡（ティラウラコット）、クシナガラ（涅槃堂、荼毘塚）、ヴァイシャリ（仏塔、アショカ王石柱）、ナールンダ僧院跡、ラジギル（霊鷲山、王舎城、竹林精舎）、ブダガヤ（大塔、金剛宝座、菩提樹）、尼蓮禅河、サルナート（ダメーク塔、迎仏塔、大菩提寺）

○博物館見学：サルナート博物館、マトゥラー考古学博物館、ニューデリー国立博物館

○インド文化研修：ニューデリーのインド門、ベナレスのガート（ヒンドゥー教徒の沐浴風景、火葬場、ヴィシュヴァナート寺院）、タージマハル、アグラ城

ブッダ誕生の地ルンビニ、成道の地ブダガヤ、初転法輪の地サルナート、入滅の地クシナガラと



インド・ベナレスで迎える若槻俊秀先生63歳のお誕生日のパーティー

いう仏教の四大聖地に加え、サヘート・マヘート、ヴァイシャリ、ラジギルの仏跡研修を行うことができました。これは八大聖地のうち実に7箇所にも及びます。交通手段が乏しいインドで、短期間のうちにこれだけまわられたのは有意義でした。ブッダが2500年前に歩いた道をわれわれはバスで追ったわけですが、それでも、インドの暑さのなか、ブッダが説法してまわった距離の長さを実感することができました。

食事は朝昼晩ほとんどホテルでのブッフェでした。インド料理、

中華料理、日本料理、イタリア料理など多彩で、またホテルによっても個性があり、約2週間飽きることのない内容でした。

交通手段は、貸し切りのバスをメインに鉄道（ニューデリー～ゴンダ、ガヤ～ベナレス）と航空機（ベナレス～アグラ）を利用しました。雨季にもかかわらず、いずれも予定通りに移動できました。また学生も体調をさほど崩すことなく、すべてにおいて順調な研修旅行でした。

バスのなかから見えるインドの風景は、ブッダが活躍していた時



クシナガラ

代とほとんど変わらないと思われ
れます。インドの大地を実際に経
験してみてもはじめて、仏典のなか
の物語が理解できるように思えま
す。日本にいたのでは実感できな
い何かをこの研修旅行で学生たち
は感じ取ってくれたことではし
ょう。帰りの飛行機のなかで参加
した学生たちが「もう一度インド
に行ってみよう」と話していたの
を聞いて、今回の研修旅行が有意
義であったことを実感しました。最
後になりましたが、今回の研修旅
行を日本でサポートしていただいた
関係者の方々にお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

(山本 和彦)



霊鷲山での勤行



サールナート



聖地ブダガヤでの集合写真

ドイツ文化研修

8月25日(水)～9月6日(月)

参加学生数 16名

(引率者2名)

今回の研修旅行の主たる目的は、①バルト海沿岸のハンザ同盟都市の風土と文化に触れること、②旧東ドイツの主要都市における文化遺産と詩人・画家・音楽家・宗教家の足跡を尋ねること、③音楽の都ウィーンでオペラを鑑賞すること、④それに加えて往時のドイツ文化圏に内包されていた東欧のチェコ、スロバキア、ハンガリーの各首都における文化的・社会的背景とその現状を視察すること、でありました。

ハンブルグでは、美しいアルスター湖畔に建つ市庁舎、聖ミヒャエル教会、そしてブラームスとハイネの家を訪れることから私達のドイツ文化研修が始まりました。ハイネの愛の歌の多くは、この海に見える高台の林に包まれた家を舞台にして生まれたのです。ハンザ都市リュベックでは、トーマス・マンの『ブッデンブローク家



アルスター湖畔に建つハンブルクの市庁舎は美しい！

の人々』の舞台を、ベルリンでは、往時の東西分断の壁と壮大なスケールのペルガモン・ミュージアムを、そしてヴィッテンベルクでは、ルターと画家のクラナハの家を見学し、大きな感動を受けました。またライプチヒでは、ゲーテの『ファウスト』の一場面をなす「アウエルバッハのケラー」やシューマンゆかりの「カフェ・バウム」で当時を偲びながらワインやコーヒーを楽しみました。ドレーズデンでは、一昨年の大洪水の

惨禍から町も立ち直り、有名なラファエロの「マドンナ」に会うこともできました。そして音楽の都ウィーンでは、世界最高の国立オペラ劇場でモーツァルトの有名な歌劇「魔笛」を鑑賞。東欧のプラハではカフカの生家を、ブタペストでは色彩豊かな美しいタイル模様の屋根を持つマーチャス教会などを見学し、意義深い2週間の研修をおえました。

(友田 孝興)



トーマス・マンの愛したリュベックのホルステン門



シューマンがクララと愛を語ったカフェ・バウムでお茶とケーキをどうぞ

2004大谷大学紫明祭

テーマ：「^{ふう}花^か～^と永^わ劫なる旅路へ花は舞う」

期 間：2004年11月11日(木)～11月14日(日)

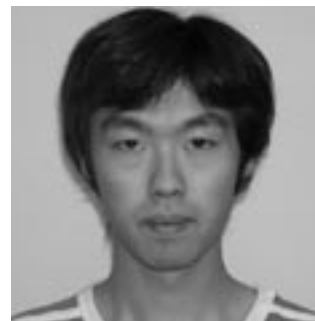
日	場 所	イベント名	時 間	内 容 概 略
11日(木)	野外ステージ	園遊会	16:30～20:00	2004年紫明祭の開催を告げるイベント イベント紹介 樽開きなど 「gulff」「CHABA」によるスペシャルライブ
12日(金)	野外ステージ	競音会	12:00～16:30	軽音楽部・フォーク研究会・J A Z Z研究会 各団体3バンドによるライブ
		天下一頭脳会 ～谷大ギリギリぶっちぎりのすごい奴～	18:00～20:00	勝ち抜き制の大型クイズイベント
	講堂	V I V A！体育会	10:00～12:30	大谷大学体育会主催によるイベント
		松木安太郎 講演会	14:00～16:00	元東京ヴェルディ監督 松木安太郎氏による講演会（有料）
	2301教室	宗教シンポジウム	13:30～17:00	テーマ：“人間になる”ということ 基調講演：評論家 芹沢 俊介 氏 大谷大学教授 ロバート F.ローズ氏
13日(土)	野外ステージ	大谷大学学園祭 ～すべての武器を楽器に～	12:00～15:00	有志によるライブ
		friday night heineken	16:00～17:00	ク
		プチ自慢やります。	18:00～20:00	プチ自慢を披露するイベント
	講堂	光永 亮太 Live in 紫明祭	16:30～19:30	光永亮太によるコンサート（有料）
14日(日)	野外ステージ	ほろにが	11:30～12:30	大谷大学吹奏楽団による演奏
		Lot Crew	13:00～14:00	有志によるライブ
		SIX SENCE ～あなたの第六感を探れ～	15:00～17:00	人間の持つ五感と、「第六感」を駆使した 次世代クイズイベント
		後夜祭 ～谷大の中心で喜びを叫ぶ～	18:00～20:00	2004年度学園祭最後を飾るイベント
	多目的ホール	推理小説作家講演会	14:00～16:00	講師：麻耶 雄嵩 氏（有料）
	響流館メディアホール	全国高校生「人間が大好きです」 表現コンテスト～	10:30～11:30	大谷大学主催の、映像やホームページによる コンテストの表彰式
	キャンパス内	射的でど～ん！？	13:00～15:00	キャンパス内でのミニイベント
	11日～14日	博綜館ビロティー	OBSサテライトスタジオ	10:00～20:00 最終日 20:30まで
キャンパス内	展示・バザー	12・13日 9:00～19:00 最終日 9:00～18:30	学生によるバザー・展示	
学内食堂	サントリー酒場	12・13日 17:00～19:30 最終日 16:00～19:00	体育会による酒場	

イベント・時間や出演者には変更等がありますので、ご了承ねがいます。

「^{ふう}花^か～^と永劫^わなる旅路へ 花は舞う～」

学園祭実行委員会

委員長 伊藤 大信



10年ぶりの猛暑といわれた今年の夏も遠く過ぎ去り、朝夕の肌寒さに季節の移ろいを感じます。この度、第104回紫明祭が迎えられることを幹部の一人として大変嬉しく思っています。

本年度のテーマである「風花」には、教職員をはじめ大谷大学に関わられる方々の願いや、紫明祭の主役である学生達の日々の学びや想い、そして紫明祭を成功させようという熱意をやさしく力強い風に喻え、紫明祭本番に見事な花が咲き誇ってほしいとの願いが込められています。しかし、どんなに美しい花であっても、その生命は有限、極論すれば一瞬のものであります。ですが、我々の紫明祭を成功させたという達成感は一瞬に消えるべきものではありません。そこで、紫明祭によって得た熱い想い

が無終のものになればと思い、「～永劫なる旅路へ花は舞う～」というサブテーマを掲げたのです。

私は本年度の学園祭実行委員会を組織するにあたり、実行委員の仲間と共有する一つの言葉を掲げました。それは「良心」です。我々実行委員は紫明祭を企画運営する中心にある者ですから、必然的に様々な決定権を有しています。しかし、我々が他者の意見を顧みず私利私欲にはしたとしたら、そこには力強い風は吹かず、美しい花が咲き乱れることはないでしょう。他を利する思いやりの心を忘れず、すべての人に楽しんでいただける紫明祭を作り上げるため、この言葉に依ろうと訴えたのです。

数え切れないほど多くの方々のお蔭で、第104回紫明祭がいよいよ迎えられようとしています。4日間の紫明祭。日常とは異なる雰囲気にもまれる谷大で、日常の集大成(＝大輪の花)を華やかに咲かせて下さい。

園遊会・宗教シンポジウムのご案内

今年で104回目を迎える大谷大学紫明祭が11月11日(木)から14日(日)まで行われます。

11日(木)の午後4時30分からの「園遊会」では、サンクンガーデンの特設ステージにて各種イベントが開催されます。学生、教職員との交流の場として、是非、ご参加ください。

なお、当日には、北区長、北大路の商店街の方や近隣住民の皆さんをお招きし、ともに園遊会を楽しんでいただきます。

12日(金)午後1時30分からの宗教シンポジウムでは、テーマ「“人間になる”ということ」と題して評論家の芹沢俊介氏をお招きし、本学の仏教学ご専門のロバート

F. ローズ教授とともにそれぞれの立場から基調講演をいただきます。

お2人の基調講演をもとに、参加者の皆さんと一緒に考えるシンポジウムを行います。

大谷大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要

大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要を以下の日程で厳修いたします。

日時 11月26日(金) 午前10時
 場所 講堂
 《記念講演》
 講師 本学名誉教授 藤島 建樹
 講題 中夏日域の仏教

年末・年始の日程

12月27日(月) 宗祖御命日勤行
 一事務休止—
 1月7日(金) 修正会
 1月11日(水) 授業再開

教務部

真宗大谷派教師前期・後期修練、教師補任申請の説明会について

後期修練ならびに教師補任申請(大学院・文学部・短期大学の修了・卒業年次生主対象)の説明会を11月中旬に行います。

また、前期修練(短期大学部第1学年、科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コース生主対象)の説明会を12月中旬に行います。

受講予定者は教務部掲示板にて日時等を確認の上、説明会に出席してください。

修士論文・卒業論文の提出について

◎論文提出・題目変更締切日について

明年3月、文学部卒業見込み、大学院修士課程修了見込みの学生は、右記の一覧表で論文提出締切日等を確認の上、期日を厳守してください。

なお、題目を変更する場合は、所定の「題目変更届」を教務部窓口で受取り、指導教員の承認印を得た上で、右記の題目変更締切日までに教務部へ提出してください。

◎提出場所について

教務部窓口へ提出してください。ただし、修士論文の提出最終日および卒業論文提出最終日の2日間には右記の会場に提出してください。

— 題目変更・論文提出締切日時について —

種 別	題目変更締切日時	論文提出締切日時
修 士 論 文	12月3日(金) 午後5時	12月10日(金) 午後4時
卒 業 論 文	12月16日(水) 午後5時	1月12日(水) 午後4時

— 提出最終日の会場について —

種 別	最終日	会場
修 士 論 文	12月10日(金)	至誠館会議室(至誠館2階)
卒 業 論 文	1月11日(火) 12日(水)	多目的ホール (講堂棟3階)

(注意事項)

■論文等の提出方法や様式については『履修要項』や『卒業論文作成の手引』で確認してください。

■ワープロ使用や縦書・横書等の様式については、分野により制限事項が異なりますので、事前に指導教員と相談してください。

なお、ワープロを使用する場合で、所定の書式以外で提出するときは、題目変更締切日までに「ワ

ープロ書式所定外作成届」を提出してください。

■提出最終日の締切時間「午後4時」とは、題目確認・ページ数の記入・目次の作成・見返し等をすべて整え製本した状態で提出する最終時間のことです。午後4時の段階で、この要件を満たしていない論文は受領できませんので注意してください。

冬期休暇中の図書館の館外貸出について

- 通常の貸出手続きにより借り出している図書は、すべて返却した後、新たに冬期休暇中の館外貸出の手続きを取ってください。
- 手続きには**学生証**・**利用証**を必ず携帯してください。

[貸出冊数(通常貸出冊数と同じ)]

文学部・短期大学部学生	5冊以内
科目等履修生	
聴講生	
研修員等	
大学院生	10冊以内
非常勤講師	
名誉教授	20冊以内
教職員	

[手続期間]

12月14日(火)～12月25日(土)

[返却日]

1月13日(木) 厳守

*詳細、変更は掲示・ホームページにてお知らせします。

進路就職センター

進路就職センターは、進学や就職など、進路全般についての相談窓口です。学年を問わず気軽にご相談ください。

■就職支援企画

ー業界(企業)研究講演会ー

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年対象)

2004年10～11月実施(詳細は掲示確認のこと)

就職希望者に対して「業界」の動向や展望、企業内での仕事などについての講演です。また、期待される人材などについても知ることができます。

■第3回 就職ガイダンス実施

ー就職活動直前ガイダンスー

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年対象)

2004年12月4日(土)・11日(土)実施(詳細は後日掲示)

本格的に始まる就職活動の直前に、総まとめ的なガイダンスを実施します。今まで参加できなかった学生はもちろん、参加していた学生も是非参加し、今後の活動に望んでください。

■第4回 就職ガイダンス実施

ーマナー・リクルートファッション・Uターンについてー

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年対象)

2004年12月22日(水)実施(詳細は後日掲示)

就職活動におけるマナーやリクルートファッション、またUターン就職をするにあたっての注意点なども説明します。

■就職活動報告会

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年対象)

2004年11月24日(水)実施(詳細は後日掲示)

既に進路が決定している卒業年次の在学生在が、どのように活動してきたかを聞く絶好のチャンスです。今後の活動の為に是非参加し、有効な情報をキャッチしてください。

■就職活動全般対策合宿(参加費:3500円)

(文学部第3学年・短期大学部第1学年・修士課程第1学年対象)

2004年12月18日(土)～19日(日)

本格的に始まる就職戦線に向けて、どの様なことが重要なのかを実践的に体験できます。また、履歴書・自己PR・面接など、就職戦線に必要な情報が入手できます。

第1学年からのサービス紹介 ～キャリア形成を考える～

～資格取得を目指そう～

◎秘書技能検定試験対応ビジネスマナー講習 第3回
社会人となってから必要とされるビジネスマナーを、基本から応用まで幅広く学ぶ。

※第75回秘書技能検定試験は2月上旬に実施されます。(要別途申込)。

秘書技能検定試験対応ビジネスマナー講習(2級) 第3回

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
11月	18日・25日・29日	17:50～19:30 但し、12/21・24日は 時間変更	50	3,000	2,250円 学内書店にて購入	11月1日(月) ～16日(火) 17:00まで
12月	2日・6日・9日・13日 16日・21日・24日					
1月	13日・17日・20日					

◎マイクロソフトオフィススペシャリスト

(Word・Excel) 対策講習

第5回・第6回

仕事をする上でもっとも使用されているWord・Excelについての講習です。また別途申込にてマイクロソフトオフィススペシャリスト検定試験も受験していただけます。

マイクロソフトオフィススペシャリスト対策講習

●第5回

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	9日・10日・14日～18日	9:30～12:40	30	5,000	4,000円 学内書店にて購入	1月11日(火) ～21日(金) 17:00まで
	21日～25日					

●第6回

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	9日・10日・14日～18日	13:30～16:40	30	5,000	4,000円 学内書店にて購入	1月11日(火) ～21日(金) 17:00まで
	21日～25日					

～難関試験に早期から備えよう～

◎公務員受験特別講習 演習講座

公務員希望者を対象に、採用試験に対するの受験対策講習を開講します。

今回の講習は、地方中級レベルから大卒警察官・大卒消防職員レベルに向けての一般知識・一般知能分野(数的推理・判断推理・資料解釈)対策となります。受講は学年を問いません。

公務員受験特別講習 演習講座

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	14日～18日	10:30～16:00	50	4,000	2,600円 当日会場にて販売	1月11日(火) ～21日(金) 17:00まで

◎教員受験特別講習<教職教養科目> 第2回

教員希望者を対象に、採用試験に対するの対策講習を開講します。

今回は、最新の出題を解きながら第1回の学習を復習、深化、統合し、併せて出題傾向をさぐります。受講は学年を問いません。

教員受験特別講習 第2回 教職教養科目対策

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
2月	9日・10日・14日 16日・18日・21日 23日・25日・28日	14:30～16:00	50	4,000	500円	1月17日(月) ～28日(金) 17:00まで
	3月					

～資格取得講習～

◎ホームヘルパー2級資格取得講習

介護に関する幅広い技能と知識を習得し、介護を必要とする人に家事全般や食事などの介助を行う「ホームヘルパー(2級)」の資格取得講習です。

受講する為には、事前の説明会に出席しなければなりません。

ホームヘルパー2級資格取得講習 第2回

日程		時間	定員	受講料	テキスト	受付期間
1月	8日・29日	9:00～12:30	40	50,000	受講料に含む	12月初旬に実施する説明会に出席した者のみ受付をします。 ※詳細は掲示等で確認のこと。
2月	10日					
2月	17日・18日・21日～25日	9:00～17:00	40	50,000	受講料に含む	12月初旬に実施する説明会に出席した者のみ受付をします。 ※詳細は掲示等で確認のこと。
3月	施設実習5日					

●日程、時間、受講料等については予定です。実施要項や掲示等に注意してください。

学生相談室から

あなたの居場所はどこですか

学園祭の季節を迎えた。1学年も、もう“新人生”という感じではなくてきた頃だ。高校までとは異なり大学には「自分の教室」というものがないので、入学当初は「居場所のなさ」を感じた学生も多かっただろう。半年を過ぎて、そろそろ大学の中の「居方」のようなのを見い出せてきたであろうか。

居場所のなさは新人生に限らない。また大学内とも限らない。大学生くらいになると家での居心地が悪くなってくることもある。孤独でつらく感じられるかもしれないが、それは心理的な自立に向かう、こころの発達の動きでもある。人にはそれぞれ「自分はこことつながっていることが必要だ」と感じられる場所があるようだ。実際に行くことはもちろんだが、思い浮かべるだけでこころが安らぎ、元気になる場所。静かな自然の中などを連想しがちだが、都会の真ん中の方がエネルギーの充実を感じる人もいるし、本屋さんや喫茶店、居酒屋の雰囲気もいいという人もいる。物理的な場所



学生相談室の開室について

場 所	曜 日	相談室	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	1 2	谷口奈青理	10時30分～16時00分
	火曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	水曜日	1	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週・第4週 13時00分～16時00分
		2	佐賀枝夏文	10時30分～14時00分
	木曜日	1 2	讓 西賢 菊岡 千夏	10時30分～16時00分
	金曜日	1 2	菊岡 千夏	10時30分～16時00分

はなく、友達や仲間をつくる空気ということもあるし、過去の「ある時のある場所」、あるいはまた本の中に、ということもある。自分にとっての「ここ」はどこなのか。それは見つけるといふより、気づくものなのである。

谷口 奈青理



谷大エリア散策

第17回 グリルYUTAKAさん（洋食専門店）

鳥丸北大路上ルの洋食専門店、グリルYUTAKAのご主人・山本吉助さんと奥様の美佐子さんにお話を伺いました。



ご主人・山本吉助さん

—お店はいつ頃からですか

昭和53年からですので、もう26年になりますね。開店したのが4月25日で、ちょうど長男の2歳の誕生日でした。それで長男・豊の名前をとってYUTAKAと名付けました。店の歩みと息子の成長がほぼ同じで、覚えやすいですね。

私は岡山、妻は東京の出身なのですが、ぜひ京都に住みたかったのです。そして京都の北の方に小さな店を持ちたいと思っていましたので、小さなお店7～8軒をまわって修行しました。ここは北山にも近いですし、街の中なのにすぐ近くにきれいな賀茂川が流れていて、気に入って店を開きました。

—カキフライがとてもおいしいという評判ですが、特に人気のメニューは何ですか

和風ハンバーグ、ホタテのブルゴーニュ風、白身魚の香草風味などが人気があります。カキフライは冬限定メニューですが、そんなに評判がいいとは知りませんでした。嬉しいです。揚げたての熱々をたっぷり召し上がっていただけるので、カキがお好きな方に喜んでいただけるのでしょうか。

—谷大生はよく来店していますか

大谷大学の方にはいつもお世話

になっています。先生方や職員の方がよく来て下さっていますし、常連さんもおられます。学園祭の期間には毎年まとまった出前の注文をいただいて、ありがたいです。大谷の学生さんには昔からアルバイトに来てもらってまして、皆さんよく頑張っていただいています。

—お店の中にきれいな山の写真がたくさん飾ってありますね

私達は山登りが趣味で、何度も山に登っています。ここ5年間のお正月はずっと上高地で過ごしています。写真はすべて妻が撮影したものです。上高地の大正池はとても美しい所ですよ。

登山の体力づくりのためにマラソンを始めまして、マラソンも趣味の一つになりました。これまでにフルマラソン10回、100kmマラソン2回を走り、京都ハーフマラソンは抽選にもれた1回を除いて毎回出場しています。料理人は健康でなければ、というのが私のモットーです。



落ち着いた店内

—落ち着いた雰囲気の内装ですね

店を小さな山小屋風にしたかったのです。山小屋で食事しているような雰囲気を楽しんでいただきたいと思ひまして。内装や照明も山小屋風にしました。

お客さまにも登山好きの方が多くて、情報交換の場になっています。山の話に花が咲いて楽しいで

すよ。お客さまとお話をしながら料理を作るのがとても楽しいのです。いろいろなお話が伺えて勉強になりますし。山の達人の方には山のお話、大谷大学の先生方には仏教のお話をたくさん聞かせていただいて、ずいぶん勉強になりました。お客さまもおしゃべりと料理を楽しんで下さっています。お客さまとの距離を近くしようこのようなカウンターにしたのです。お金もうけよりも、楽しんで仕事をするのが大切なんです。ファストフードなどはただお腹に食べ物を入れるだけで、味気なく思えますよ。

この頃は世の中全体がせわしないというか、余裕がなくなってきたように感じます。何でもしんどいこと、時間のかかることを避けるようになりましたね。涼しさを求めるなら、山に登って森の冷気を楽しむよりも、家でクーラーをかけて過ごす方が多いのですね。無駄と思えるような事の中にも価値があると思うのですが。そういう時代だからこそ、ゆっくり会話と食事を楽しんでいただければと思います。店の名のように豊かな時間と豊かな味ですね。

—ありがとうございました



YUTAKAの外観

写真でふりかえる 大谷大学今昔



新人女子学生歓迎会（昭和36年）



旧自灯寮



自灯学寮 同窓会記念撮影（平成8年）

大谷大学の女子学寮

佐々木 令 信

学生課の学籍簿に男女の欄がもうけられたのは、昭和三九年度（一九六四）入学の新入生からである。

昭和三六年五月三十一日には、四月入学の女子学生だけの歓迎会が、先輩女子学生の肝入りで、当局および当時講師であった白土わか先生出席のもと、学内応接室で開かれた。新人女子学生は、大学院修士課程一名、文学部六名、短期大学部二名、聴講生二名で、学内には都合二十数名の方々が在籍しておられた。大学全体では、大学院（修士・博士）一四九名、文学部六六七名、短期大学部六七名であった。厚生施設としての女子寮は、北区大宮に昭和三二年開設、昭和四一年まであり、寮生約五名を大学の女子職員が世話をしていた。

学寮としての旧自灯寮が、大学の南近く、北区小山西上総町五一に開設されたのは、昭和四二年（一九六七）四月である。女子学寮設置の背景として、昭和三八年四月に、短期大学部に国文科（現、文化学科）が設置され、昭和四一年四月に、同じく幼児教育科が設置され、女子学生の増加したことがあげられる。

自灯学寮の命名は、当時の学長曾我量深（第十七代）によるもので、出典は『涅槃経』である。寮生二二名を収容（一回生二十名、二回生二人）。寮生の居室は、一回生用として一階二室、二階三室、各室四名同居。二回生は一階一室、二階二室、各室一名。寮監は当時の学生部長・寺川俊昭（のち、第三代学長）であった。

旧自灯学寮の所有者は、望月玉溪（ぎょくけい）という日本画家で、望月玉蟾（ぎょくせん）、玉仙（ぎょくせん）、玉川（ぎょくせん）、玉泉（ぎょくせん）と続く日本画家の家系であった。御池室町に住んでいた望月家は、玉泉の没（大正二年）後、子息玉溪が、絹地に絵を描くに際して、街中の埃を嫌って、鞍馬口以北が田園風景であった時代、旧自灯学寮に移転したという。奇しくも大谷大学が東京よりこの地に移転し、現尋源館が落成した直後である。昭和二六年夏売却、本学の購入は昭和四一年十月二日、価格は二〇五〇万円、土地面積は六九八・五七㎡、建物面積は四〇七・一八㎡。

平成八年（一九九六）、松ヶ崎にあった知真学寮に、老朽化し、地震の心配な旧自灯学寮を移転し、現在に至っている。移転した年の四月二十日には、大谷大学と旧自灯学寮にて、全国各県からかけつけた旧寮生たちによる自灯学寮同窓会が、盛大に行われた。写真は、大谷大学旧図書館（現、至誠館）前での記念撮影。

(写真) れいしん 教授 日本仏教史

研究室だより

幼児教育科研究室から

幼児教育科

○幼児教育科2年生は『卒業研究』を2部作成し、1部は教務課に、もう1部(コピー可)は一般研究室に提出してください。提出締め切りは、11月30日〔火〕午後4時です。【厳守】

○〈幼教フェスティバル2004〉

を12月18日〔土〕に開催する予定です。学生自身による手づくりの発表会です。詳細は後日、幼児教育科の掲示板(2号館1階)でご確認ください。

○今年度2年生が提出した『卒業研究』発表会を1月12日〔水〕第5時限～第6時限に開催します。授業の一環として行いますので、全員必ず出席してください。

詳細は追って連絡します。

○一般研究室の図書の貸し出しは、1月17日〔月〕までです。一般研究室の図書は、みんなが手にとって見たり調べたりするものですので、貸し出し期間(1週間)は守ってください。(申し出られれば、さらに1週間延長します。)

総合研究室から

11月、12月の研究室の開室は以下のとおりです。宗教行事、学園祭等により変則的な開室日もあるので、注意してください。

なお、開室日や開室時間の変更は、学生向け情報提供システム、学内掲示板に掲載します。確認してください。

2005年は1月8日(土)から開室します。1月9日(日)、10日(月祝)も開室する予定です。

11月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 ^{*1}	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27 ^{*2}
28	29	30				

12月

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

濃い黄色は、響流館の休館日
 黒字は、9時開室 19時30分閉室
 薄い黄色は、10時開室 17時30分閉室

※1 学園祭期間中(11月11日～15日)は、日曜日を除き、土曜日扱いの開室(10時～17時30分)とします。ただし、11月11日は前夜祭のため、15時に閉室します。

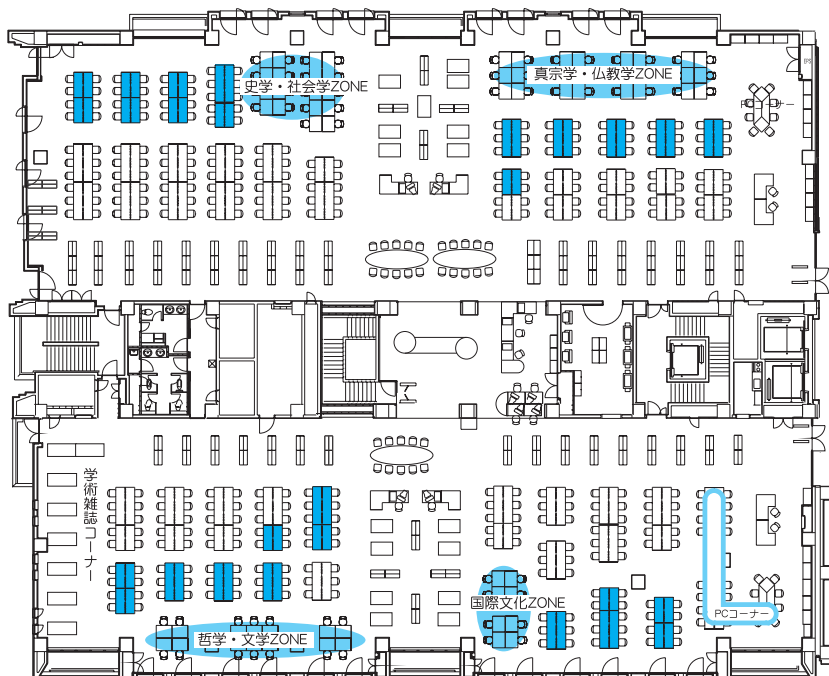
※2 11月26日は大学報恩講のため、13時開室(17時30分閉室)。

総合研究室内の配置が変わりました。

響流館3階の総合研究室内の配置を右図のように変更しました。今回の配置変更は、博士後期課程学生の研究用机を東西の窓側に配置変更するとともに、研究室内に散在していた学術雑誌を東南エリアに集中配架するものです。

また、後期から総合研究室からも図書館書庫に入庫可能になりました。ご利用ください。

- PCコンセント配置机
- 博士後期課程学生用机



総合研究室からのお知らせ

総合研究室では、任期制助手による読書会、勉強会が開催されています。参加希望者は担当者まで

1	カント『宗教論』読書会
2	ドイツ語がある程度できる人
3	月曜3限(隔週)
4	森、岡本(哲学)
	y-mori@res.otani.ac.jp
5	ドイツの哲学者カントの著作をドイツ語の原典で読みます。哲学や宗教学を深く学びたい人向けです。

1	仏典輪読会・大智度論を読む
2	学科・学年不問
3	月曜6限(毎週)
4	藤谷(仏教学)
	総合研究室の藤谷まで
5	スピード重視。『国訳大蔵経』をテキストに、1回に1巻を読みます。

1	『至元弁偽録』講読会
2	学科・学年不問
3	火曜5限(隔週)
4	井黒(東洋史)
	shinobuiguro@res.otani.ac.jp
5	モンゴル時代の道仏論争に関して詳細を記す当該史料を輪読します。東洋史、仏教史の両分野に関心のある方はご参加下さい。

1	大谷大学日本仏教文化研究会
2	学科・学年不問
3	火曜17:00~19:30(毎週)
4	安藤(日本史)
	wataruando@res.otani.ac.jp
5	仏教文化専攻(主に日本史)の院生中心の自主勉強会。日本史に関する基本的な史料、研究図書の輪読などをします。

1	真宗史料を読む会
2	真宗史に興味のある方
3	木曜6限(毎週)
4	安藤(日本史)
	wataruando@res.otani.ac.jp
5	「真宗史」の基本的な史料を輪読し討論する勉強会。できるだけ多くの真宗史料に慣れ親しむのがねらいです。

1	漢文仏典案内
2	学科・学年不問
3	金曜5限(隔週)
4	藤谷(仏教学)
	総合研究室の藤谷まで
5	総合研究室内の図書を中心に漢文仏典の参照法や関連する諸問題について学びます。

1	『選択本願念仏集』講読会
2	学科・学年不問
3	火曜4限(毎週)
4	西本(真宗学)
	yusetsunishimoto@res.otani.ac.jp
5	法然の『選択本願念仏集』を輪読します。漢文、真宗学の聖教に親しむことを目的としています。テキストは『真宗聖教全集』第1巻。

1	ドイツ語読書会
2	ドイツ語を極めたい人
3	木曜3限(毎週)
4	片岡(国際文化)
	yo_kata@res.otani.ac.jp
5	専門分野で原書を読む人や院試を受験する人など高度な読解力をつけたい人向けの勉強会です。

1	英語・院試対策
2	院試の受験生
3	未定
4	伊村(国際文化)
	imura@res.otani.ac.jp
5	院試の受験生を対象に、英語の過去問の解答、解説や、問題演習を行います。

1	ドイツ語初級勉強会
2	これからドイツ語を始めたい人
3	木曜11:00~12:30(毎週)
4	片岡(国際文化)
	yo_kata@res.otani.ac.jp
5	随時参加を受け付けますのでドイツ語に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

1	初級ドイツ語会話講座
2	ドイツ語を1~2年学んだ人
3	水曜5限(毎週)
4	片岡(国際文化)
	yo_kata@res.otani.ac.jp
5	Themen neu 1 を用いて会話表現を中心に学んでいきます。

- 1 会の名称
- 2 参加対象
- 3 日程・時間
- 4 担当者名
- 5 主旨・概要

※「担当者」はすべて任期制助手です。
※一部の読書会、研究会は演習室で開催しています。

学会だより

仏教学会

公開講演会

12月7日(火) 16:10~

場所 響流館 3F
メディアホール

講師 名古屋大学教授
宮治 昭 先生

研究発表例会(第2回)

12月21日(火) 16時10分~

場所 尋源講堂

発表者 任期制助手
藤谷 昌紀 氏
一色 順心 教授

いずれも、講題・発表題目は未定です。

教育学会

12月に公開講演会を開催する予定です。

詳細は後日お知らせします。

出版物紹介

◎ 『歎異抄の心を語る』

廣瀬 晃 著
方丈堂出版 刊
(2004.7) 256頁



◎ 『求道とは何か』

延塚知道 著
文栄堂 刊
(2004.7) 206頁



◎ 『女の手紙』

荒井とみよ・永渕朋枝 編
佐賀枝夏文 分担執筆
双文社出版 刊
(2004.7) 219頁

◎ 『俱舎論の原典研究 智品 定品』

小谷信千代・櫻部 建
本庄良文 共著
大蔵出版 刊
(2004.10) 424頁

◎ 『モリス ユートピアだより』

五島 茂・飯塚一郎 訳
多田 稔 解説
中央公論新社 刊
(2004.5) 392頁

◎ 『保育ライブラリ』

保育の現場を知る 施設実習』
民秋 言・安藤和彦・
米谷光弘・中山正雄 編著
大和正克 分担執筆
北大路書房 刊
(2004.9) 182頁

◎ 『保育ライブラリ』

保育の現場を知る 保育所実習』
民秋 言・安藤和彦・
米谷光弘・中西利恵 編著
大和正克 分担執筆
北大路書房 刊
(2004.9) 158頁

◎ 「紀伊山地の霊場と参詣道」

世界遺産登録記念
特別展示図録『祈りの道～吉
野・熊野・高野の名宝～』
豊島 修 分担執筆
大阪市立美術館 編集
毎日新聞社・NHK発行
(2004.8) 359頁

◎ CD『16/17 音平均律 とんでふ!?!』

杉山正治 DESAFINADOS 編集
Do-To-Ro-Re Music Entertainment 刊
(2004.8)
※書店・レコード店では扱って
おりません。
ご注文は下記ホームページへ
<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/charai/>

「大谷大学広報04-冬」発行のお知らせ

「大谷大学広報04-冬」の発行を1月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

①博綜館ピロティ（博綜館入口横） ②学内食堂 ③各研究室 ④至誠館（学生課カウンター前） ⑤1号館1階 ⑥2号館1階
また大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html

お詫び

前号の『大谷大学広報夏号』の中で誤りがありましたので、次のとおり訂正いたします。

P.9 大谷学会春季公開講演会開催

(誤) 大谷大学教授 神戸和磨氏「樹心仏地―値偶と自覚―」

(正) 大谷大学教授 神戸和磨氏「樹心仏地―値遇と自覚―」

大谷中学校・大谷高等学校からのお知らせ

『今熊野セミナー』について

『今熊野セミナー』は、大谷中学・高等学校長の講演を基に、参加頂いた方々と共に話し合いながら進める講座です。大谷中学生・高校生の保護者の方々、近隣の地域にお住まいの方々、そして一般の方々に対して開かれた講座です。二学期からの講座の予定は、以下のようになっています。

- 第3回 2004年10月5日(火)
午後2時～午後4時
講題 「聞法——真実に照らされて自己を知る——」
- 第4回 2004年12月3日(金)
午後2時～午後4時
講題 「同朋——ともに生きる——」
- 第5回 2005年2月1日(火)
午後2時～午後4時
講題 「精神——安心して尽くす——」

詳しくは、大谷中学・高等学校渉外部まで、お問い合わせ下さい。(TEL 075-541-1317)

2005年度 大谷中学・高等学校生徒募集要項

大谷中学校 (共学)
募集人員 120名
出願期日——2005年 1月11日(火)
(S・Aは同時出願も可))
1月14日(金)
入試日—— S入試 1月22日(土)
国語・算数・作文
A入試 1月23日(日)
国語・算数・社会・理科

大谷高等学校 (共学)
募集人員—— 300名
出願期日——2005年 1月24日(月)
)
1月27日(木)
入試日 ——2005年 2月10日(木)
大谷高等学校 知進寮生徒募集 (男子のみ)
募集人員—— 5名
出願期日——2005年 1月5日(水)
)
1月7日(金)
入試日 ——2005年 1月16日(日)

九州大谷短期大学からのお知らせ

2005年度入学者用の入学試験要
項は以下の通りです。

1. 募集学科・定員
〔全学科 男女共学〕
- 表現学科
(演劇放送フィールド/
情報司書フィールド)
50名
 - 幼児教育学科
(幼児教育コース/
児童福祉心理コース)
100名
 - 福祉学科 50名
 - 仏教学科 10名

2. 入試日程

[入試日程]

入試日程	出願期間	試験日・会場	合格発表
公募推薦 自己推薦 社会人 長期履修 (1次募集)	10月18日(月)) 11月5日(金)	11月11日(木) 本学 ----- 11月10日(水) 北九州・佐世保 大分・鹿児島	11月18日(木)
公募推薦 自己推薦 (2次募集)	12月10日(金)) 12月20日(金)	12月24日(金) 本学	12月27日(月)
一般入試A 社会人 長期履修 (2次募集)	1月7日(金)) 1月31日(月)	2月5日(土) 本学	2月10日(木)
一般入試B 社会人 長期履修 (3次募集)	2月21日(月)) 3月3日(木)	3月5日(土) 本学	3月10日(木)
一般入試C 社会人 長期履修 (4次募集)	3月14日(月)) 3月25日(金)	3月29日(火) 本学	3月30日(水)

[入試科目]

公募推薦	自己推薦	一般入試	全学科	①作文 ②面接
社会人入試	長期履修生試験		全学科	①面接

保育士資格取得者対象

1. 募集学科・定員〔男女共学〕
●専攻科・福祉専攻 30名
2. 入試科目 ①作文 ②面接

	出願期間	選考日	選考会場・日程	合格発表
第2次募集	2005年1月7日(金) ～1月31日(月)<必着>	2月5日(土)	選考会場/本学 作文 9:00～10:00 面接 10:10～	2/10(木)
第3次募集	2005年2月21日(月) ～3月3日(木)<必着>	3月5日(土)		3/10(木)

詳しくは九州大谷短期大学広報室(TEL 0942-53-9900)へ、お問い合わせ下さい。

10年以上も前のことになるのでしょうか、ポケットベルが流行っていたころ、公衆電話にむかって猛烈な速さでキーを打つ高校生の姿を見て、とても驚いた記憶があります。私自身、そうした流れについていけないまま携帯電話を持つことで時代の流れに追いついたかと思ったら、こんどはその多機能化を追いかけるととても追いつけない状態に陥っています。だいたい、コンビニの支払いとか新幹線の予約などまで多機能化していく方向とか意義が理解できていません。

コンピュータの活用にしても然りです。日々使っているのは

文章作成とメール、ネット検索くらいです。使わないわけにはいかない。でも使いこなすというところまではとてもおよばないというジレンマです。たぶん、私はこれらを“道具”として使いこなせる能力と想像力が乏しいまま、技術発展とコモディティに振り回されているのだらうと思います。“時代遅れ”の一言で片付けられればいいのですが、携帯電話への依存とも見えるような現象の問題性、“モノへの捉われ”があるのではないかとの恐怖感も同時に浮かび上がってきます。

もちろん、携帯電話のコミュニケーションツールとしての有

用性をただちに否定する考えはありません。たとえば、聴覚言語障害者にとって携帯メールは、それまでのファックスによる連絡方法とは違って、ほぼリアルタイムでやり取りができるというメリットが生まれました。技術の発展がコミュニケーションをゆたかにした場面です。

携帯電話のことを考えているなかで、ほかにも気になったことがあります。学生諸君の手帳の“充実”ぶりです。中身を覗き見るような趣味はありませんが、どうやら空白になっている日や時間帯がほとんどないまでに埋め尽くされています。アルバイト、デート、サークルな

話題の広場 SQUARE

携帯電話、 確かに便利だが・・・(^ ^ ;

山下憲昭



絵 内山智廣

どがその中身でしょうか。ゼミでの発表の予定も少しは入っているかも知れませんが、なぜそんなに忙しくしておきたいのでしょうか。私の学生時代、それほどまでに手帳を埋め尽くしていた友人がいたようには思いません。

また、ケータイに、“一日に一度もメールが届かないと淋しい”という声を聞きます。正直に言って、これは私にもわかるような気がします。しかしなお、無心に(?)メールを打ち込んでいる若者の姿が、かえって、彼らの孤独を表しているように思われてなりません。

人間の居場所、コミュニケーション、互いの関係の持ち方などが急速にわかりにくい時代と

社会になってしまったのではないかと思われるのです。

学内の先輩、同僚教員のなかに携帯電話を使っていない方もおられます。持っていて出張のときくらいしか使わないという方もあります。そうした方がたの様子を拝見するとき、何かしら人としての強さのようなものを感じ、羨ましくさえ思います。なかにはツールの変化についていくことを諦めた人もおられるでしょうが、その方々も含めて、時代と社会の変化、あるいは人間関係の持ち方に対しての毅然とした姿勢があるように思われます。

今日の社会、商品と貨幣の流通を基礎とする資本主義経済社会では、契約による社会関係が

拡大し、そこでの人と人との関係は人間の本質から逸れていく方向にあるのだという見方があります。商品に捉われ、モノに支配されていく自分たちの内面や他者との関係性の取り方の問題を意識し続けることが大事ではないかと考えています。

便利な携帯電話が普及するなかで、あらためて、独りでもいることのできる強さとか、他者と正面から向き合うこととかの大事さを意識しています。そんな大袈裟なことを言わないまでも、目の前で語らっている友人や教員がいるときに、届いたメールに気が取られてしまうことがないようにしたいものです。

(やました のりあき)
助教授 社会福祉学